

# 友達のよさを認め、思いを伝え合える学級づくり

－「ふれあいタイム」(計画的に設定した二者面談)を生かした  
構成的グループエンカウンターを通して－

生徒指導・教育相談班 天田 政弘 (小学校教諭)

## 研究の概要

友達のよさに気付いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりする力を育成するために、まずは、一人一人の児童と共感的・受容的な態度で「ふれあいタイム」を設け、児童との信頼関係づくりと、児童の実態把握に努めた。そして、その相談内容を生かして、友達のよさに気づき、お互いを認め合えることをねらいとして、学級活動の授業で構成的グループエンカウンター(SGE)を実施した。さらに、教科での授業の中でも、思いや考えを伝え合える話し合い活動や発表の場面づくりを進めた。

## 実践内容

### 友達のよさを認め、思いを伝え合える学級づくり

児童の変容観察

信頼関係の高まる雰囲気づくり

C&S質問紙による(第二回)による検証

#### 「ふれあいタイム」(第二回)による検証と支援

【ねらい】

SGEや授業の実践から、さらに生じた新たな悩みをじっくり聞く。

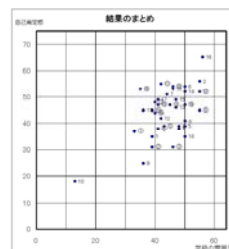
【話題になったこと】

・友達関係の悩み ・親子関係の悩み ・学習内容の理解

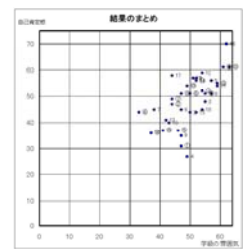
\* 児童への支援 ・ 友達との話し合いを進める。家庭への連絡と支援  
学力向上への支援

【気付いたこと】

・相談内容が、学校生活に関することに加え、家庭生活での悩みにまでも広がってきた。



一回目(6月)



二回目(11月)

相手のよさに気づき、お互いを認め合える授業の展開例

・社会、国語、道徳などで、考えを短冊カードに書き、班で話し合い、全体に発表し、考えを深め、よさを認め合う授業

「ふれあいタイム」の結果を生かしたSGEの実践例とふり返り

- ・「がんばったあなたへ」・相手に気持ちを伝える。
- ・「○かな×かな」・相手のよさを知る喜び。
- ・「お絵かきリレー」・自分と相手のよさを認め合う。

#### 「ふれあいタイム」(第一回)による実態把握と支援

【ねらい】

・児童の不満や悩みを、共感的・受容的な態度で直接聞く。

\* 二者面談の実施方法・・・一人15分間で、休み時間や放課後に実施  
【話題になったこと】

・友達とのトラブルや遊び方 ・学級の決まり ・学習の仕方など

\* 支援・・・学級のルールや定着。話す場面の設定や聞き方の態度育成  
【気付いたこと】

・友達の言動に対する不満を訴える児童が多いと感じた。そこで、相手の気持ちを理解しようとする態度を育てる必要があると考えた。

\* 「ふれあいタイム」を実施する前の児童への事前アンケート用紙

- ①私の好きなことは、( )。
- ②先生、あのね・・・( )。
- ③今、悩んでいることは( )。
- ④言えないけど、聞いてほしいことは( )。



C&S質問紙(第一回)による実態把握

日常の行動観察からの児童の実態把握

## 成果と課題

成果として、教師が共感的・受容的な態度や表情、話し方で二者面談を実施したので、児童は安心して自分の抱えている不満や悩みや希望を話すことができた。また、相手のよさに気づき、認め合えることをねらいとしたSGEの実践効果として、クラス全体が相手を思いやる態度や行動を取るようになった。また、友達と気軽に話し合えるという心地よさを感じ始め、明るい笑顔や元気な声かけが増え始めた。

課題として、教科の授業の中で、少人数の班の中での認め合いはでき始めてきた。しかし、学級全体の中での認め合いが不十分だったので、さらに効果的なSGEや授業の工夫が必要である。